

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス unico筑紫野		公表日	2026年4月29日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		十分な広さと段差が少ない構造でバリアフリーを配慮しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動の内容に合わせて、地域の施設を利用しております。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月に一度運営会議を行い、業務改善や環境整備、支援力向上に努めております。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査制度を年2回実施しております。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月に1回程度の頻度で研修を実施しております。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月ワークショップMTGを行い、全員で立案しております。また、日々のかかわりの中で児童たちの意見も取り入れております。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		以前行ったワークショップを再度行う際は、体験したことのない児童が来所する曜日へ設定したり、アレンジを加えたりすることで固定化しないようにしております。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		特に外出支援の際は、あらかじめ想定される状況について検討を行っております。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせることで支援を行っているか。	○		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には児童発達支援管理責任者が参加しておりますが、他職員が参加する場合があります。また、他職員が参加できない場合はあらかじめ児童発達支援管理責任者へ情報共有を行い、間接的に自事業所での様子が明確に伝えることができるようにしております。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談支援員さんのご協力のもと、連携を図り、情報共有をする機会はありませんが、保育園等へ直接の聞き取り等は行っておりません。今後はより深い連携に努めてまいります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現状、このような事例は発生しておりません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		

	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		公園等で触れ合う機会は設けておりますが、放課後児童クラブや児童館との交流は行っていません。	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ご本人とご家族の意向に沿って適宜おこなっています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		それぞれ具体的な場面を想定した訓練と定期的な研修を行っております。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについての把握と対応（提供しない）は行っておりますが、医師の指示所に基づく対応に関しては現状行っておりません（そのような事例がありません）。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico筑紫野			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 1日		～	2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日				

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な参加方法を選択できるワークショップの実施	季節感を楽しむ行事や外出活動など、多様な活動を取り入れています。その中で、子どもたちが「見る」「参加する」「運営側にまわる」など、自分に合った参加方法を選ぶよう配慮し、それぞれのペースで活動に関われる機会の提供につながるよう工夫しています。	ワークショップの目的や意図、療育的なねらいについて、保護者様やお子様にもわかりやすく伝えられるよう、送迎時の会話や連絡帳などを通して積極的に発信していきます。
2	子どもたちが安心して過ごせる環境づくり	一人ひとりの特性やその日の状態に配慮しながら、落ち着いて過ごせる環境や関わり方を心がけています。また、困りごとがある際には職員間で共有しながら対応しています。	職員間での振り返りや情報共有を継続し、子どもたちがより安心して過ごせる環境づくりにつなげていきます。
3	事故や怪我等が発生した際の迅速な対応と保護者様への丁寧な情報共有	事故や怪我が発生した際には、速やかに保護者様へご連絡するとともに、発生時の状況やその後の対応についてできるだけ分かりやすくお伝えするよう心がけています。また、職員間でも状況を共有と振り返りを実施し、再発防止に向けた確認を行っています。	引き続き迅速かつ丁寧な情報共有に努めるとともに、事故の振り返りや安全確認を行いながら、安心して利用していただける環境づくりにつなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会の提供	外出支援として地域の施設を利用した活動は行っていますが、放課後児童クラブや児童館、地域の子どもたちと意図的に交流する機会の提供についても、目的や必要に応じて検討が必要だと考えております。	子どもたちの特性や安全面にも配慮しながら、目的や狙いに応じて、地域資源の活用や外出活動の中などで、地域との関わりや交流を感じられる機会について検討していきます。
2	保護者同士やきょうだい間のつながりを感じられるような連携や機会の提供	年に1回程、親子教室として保護者様にもご参加いただき、ワークショップや茶話会などを通して交流の機会を設けていますが、よりつながりを感じられるような工夫や機会の提供が必要だと感じています。	保護者様のご意向やご負担にも配慮しながら、親子教室などの機会を通して交流や情報共有の場づくりについて検討し、より交流が活性化されるよう内容の充実をはかっています。
3	定期的な面談や子育てに関する相談支援の機会の充実	日々の送迎時の会話や必要に応じた相談対応は行っていますが、定期的な面談の機会として十分に周知・提供できていない部分があると考えています。	保護者様が相談しやすい環境づくりを大切にしながら、面談や相談支援の機会について改めて周知し、必要に応じて実施していきます。